



—— 杉本美術館 最終展 ——

絵に生きた画家

# 杉本健吉

2021年

9月16日[木]~10月31日[日]

休館日/毎週水曜日・10月12日[火]



杉本美術館®

SUGIMOTO ART MUSEUM

# 絵に生きた画家 杉本健吉

2021年 9月16日〔木〕～10月31日〔日〕  
休館日／毎週水曜日・10月12日〔火〕

昭和62年(1987)年4月の開館から、30年余にわたって杉本健吉の作品をご鑑賞いただいていた愛知県美浜町の杉本美術館は、この10月末日をもって、閉館することになりました。

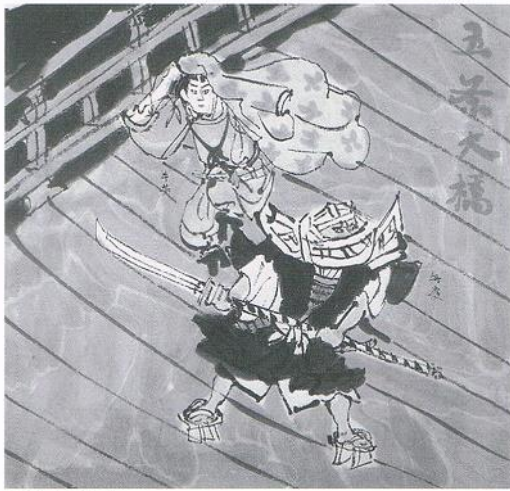
杉本美術館にお越しいただいた多くの皆様、ご支援ご協力をいただいた皆様に、厚くお礼申し上げる次第です。

この杉本美術館での最終展示として「絵に生きた画家 杉本健吉」展を開催いたします。明治に生まれ、大正、昭和、平成に至る98年の生涯にわたり、絵を描き続けた杉本健吉の画業は、その幅広さや点数でも膨大なものがあります。杉本美術館の限られたスペースでは、その一端しか皆様にご紹介できないのですが、それでも、絵に生きた杉本健吉の画業の一端は、ご紹介できるのではないかと思います。

杉本美術館の自然豊かな景観とともに、最終展示「絵に生きた画家 杉本健吉」展をご鑑賞いただければ幸いです。



鏡の自画像



あわれ月夜かな



獅子文壺牡丹



サンボール路地

## ■主な展示作品

酔芙蓉	1969	油彩	73.0 × 52.5 cm
大仏殿・雪	1975	墨彩	54.5 × 31.8 cm
北海白塔	1980	水彩	53.4 × 74.0 cm
ひまわり(トム)	1987	水彩	92.2 × 55.2 cm
美浜の庭	2001	油彩	162.0 × 130.0 cm

## アトリエ公開

杉本画伯が晩年まで使用したアトリエをご覧いただけます。

■2021年10月2日(土)、16日(土)

●10時30分アトリエ公開 ⇒ 11時 学芸員による展示作品案内

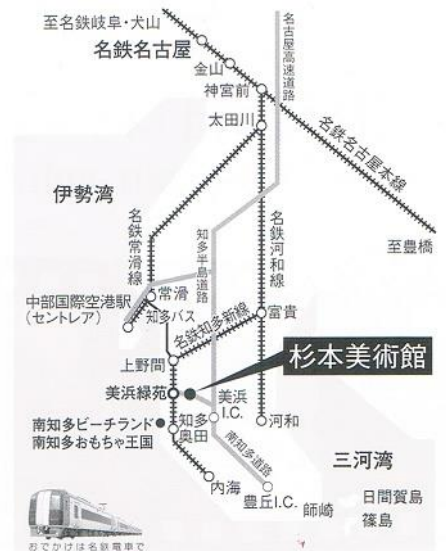
※諸事情により中止になることがあります。

## 杉本健吉 (1905-2004)



杉本健吉は、挿絵やデザインの分野でも活躍したわが国を代表する洋画家の一人で、吉川英治作「新・平家物語」「私本太平記」の挿絵や、名鉄パノラマカー・名鉄タクシーの車体色、名古屋市営地下鉄や青柳ういろうのロゴなど、数多くのデザインも手掛けました。

- 1905(明治38年) 9月20日 名古屋市に生まれる
- 1925(大正14年) 京都にて岸田劉生の門下生となる
- 1927(昭和 2年) 主に鉄道関係の観光ポスターを作る
- 1940(昭和15年) このころから大和の風物に魅せられ、奈良通いを始める
- 1946(昭和21年) 国展に奈良素描を多数出品  
第2回日展特選(「博物館彫刻室」)
- 1950(昭和25年) 週刊朝日の吉川英治作「新・平家物語」の挿絵を担当
- 1962(昭和37年) 初めてヨーロッパへ海外スケッチに出る  
以降毎年海外スケッチ旅行に出る
- 1983(昭和58年) 大阪・四天王寺「聖徳太子絵伝」完成
- 1987(昭和62年) 名古屋鉄道により知多美浜緑苑に「杉本美術館」開館
- 1992(平成 4年) 胎蔵界・金剛界の両界曼陀羅を制作
- 2004(平成16年) 2月10日 肺炎のため死去



開館時間／午前9時30分から午後4時30分

[入館は午後4時まで]

休館日／毎週水曜日・10月12日(火)

入館料金／おとな900円 高校生400円

小・中学生300円(団体料金は15名以上)

※障害者手帳をご提示の場合、入館料金半額

交通／名鉄知多新線美浜緑苑駅から徒歩7分

「内海」行特急で名鉄名古屋駅より46分

※お車で越しの場合：

南知多道路 美浜I.C.から約5分

中部国際空港から約30分